Concertino di Kyoto

コンチェルティーノ・ディ・キョウト

55周年記念演奏会

2013

11/16（土）

14時 開演

京都コンサートホール（小）

主催

スズキメソード京都

ごあいさつ

創設者　新井　　覚

おかげ様でコンチェルティーノ・ディ・キョウトは55回目の演奏会を開催する事になりました。これも多くの皆様のご支援やご協力があったからこそであり心から感謝申し上げます。50年目にバトンタッチして5年、江村先生もメンバーが卒業したり入ってきたりと長期安定型ではない合奏団をまとめてくれています。これからもこの合奏団の活動が若い世代の成長の一助になれば幸いです。

今回はOB・OGメンバーが一部の曲に参加してくれるのでいつもと一味違う演奏会になります。出演者そして本日お越しの皆様に“音”を“楽”しんでいって頂きたいと思います。

指揮者　江村　孝哉

本日は、コンチェルティーノ・ディ・キョウト55周年記念演奏会にお越し頂き、ありがとうございます。
コンチェルティーノ・ディ・キョウトは、その老朽化に伴って閉館中の京都会館が、まだ建設されていない昭和34年に、現在吉本祇園花月として有名な祇園会館で第1回コンサートを開催しました。

私は、大谷ホールの客席で、第11回演奏会を初めて聞かせて頂いて以来44年、メンバーとしては第15回演奏会以来、40年になります。

55回という節目の年に、OB・OGにご参加頂き、私がメンバーに入れて頂いた時のトップメンバーであった田中信介さん夫妻にソロを弾いて頂き、チェロのトップであった壁瀬さんに、再びその席に座って頂いてバッハのドッペル協奏曲を演奏させて頂く事に非常に感慨深いものを感じています。

現役メンバーも、OB・OGの刺激を受けて、60周年～に向けて、育って行ってくれればと願っています。

MEMBERS

Violin

村山　直　　田﨑　祐成　　廬　　珊　　林田　菜月
内田　大貴　　吉村　真綾
磯部　陽　　上田　彩希　　上田　真希　　内田　都加
加藤　淳子　　壁瀬　智泉　　妹尾　俊吾　　田中　敬子
田中　信介　　中村　亜季　　南部　史　　福永　祥子
村上佐知子　　山本　佳奈

Viola

江村美由紀　　仲佐　悦子　　佐々木めぐみ
井狩　苑子　　佐々木弘明　　田中　春美　　成宮　憲一

Violoncello

壁瀬　宥雅　　中井　敏雄　　田村　忠司　　里上　直衛
森田　健二

Contrabass

野々口真実♪　　吉平　大作♪

Cembalo

永田　悦子

（♪＝客演）

曲目解説

フーガ ト短調　ヴァイオリン無伴奏ソナタ No.1 より（江村孝哉編）

　フランスやオーストラリアのヨーロッパ列強諸国に比べ、政治・社会的にも文化的にも遅れをとっていたドイツは、外国の新しい時代潮流を取り入れようとしていた。バッハもイタリアやフランスにおいて、イタリアバロックのヴァイオリン協奏曲やフランス風舞曲による組曲、ドイツ国内においてもオルガン曲でのコラールの変奏技法やフーガの即興演奏など様々な刺激を受けていた。ヴァイオリンでの多声部奏法はバッハ以前に確立されていて、ワイマールの宮廷楽団にいたヴェストホフが作ったの無伴奏ヴァイオリンソナタに影響を受けて書いたのが、無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ・パルティータであるとされている。第２楽章であるフーガを、指揮者の江村孝哉による弦楽合奏のための編曲で、自身の指揮によって演奏される。

ブランデンブルグ協奏曲 第５番 ニ長調 BWV1050

　フルート・バイオリン・チェンバロを独奏部とする合奏協奏曲だが、特にチェンバロの活躍がめだつ。整然と進行する第１楽章の後半におかれたチェンバロの独奏（カデンツァにあたる）は 65 小節におよび、目をみはらせる華やかなものである。第２楽章は合奏が休止して３人の独奏が田園風の旋律を歌う。第３楽章はジーグ風の主題をもつフーガである。
　バッハが楽長をつとめていたケーテンの宮廷楽団は 1719 年に新しくベルリンで作られた優秀なチェンバロを手に入れた。1712 年にこの協奏曲が作られたのはこの楽器抜きには考えられない。バッハは合奏では好んでビオラを受け持ったが、この曲の演奏にあたってはチェンバロを弾き、その技巧を存分に発揮したこともまた疑う余地がない。（第 16 回演奏会プログラムより引用）

二つのヴァイオリンのための協奏曲 ニ短調 BWV1043

　バッハがケーテンの宮廷楽長であった 1717 年から 1723 年までは、音楽的に生涯で最も恵まれた環境にあった時代である。若い領主レオポルトは深く音楽を愛し、自分でも種々の楽器を演奏したので、その宮廷楽団にはすぐれた演奏家が集まっていた。バッハの管弦楽・室内楽・クラヴィーアのための曲のうち、今日第一級の傑作とされている作品の大半がこの６年間に作られたものである。まことに実り多い６年間であった。
　二つのヴァイオリンのための協奏曲は広く知られている曲であるが、冒頭の主題が文節のない長いものであることや、第１・第２の独奏ヴァイオリンが全く平等に取り扱われるなど、幾分古風な様式を呈している。第２楽章でパストラーレ風の低音の上にヴァイオリンがカノン風にくりひろげる歌はバッハの緩徐楽章の中でも最も美しいものであると古くからいわれている。しかし、第１・第３楽章の力強さ、緊張感もこれに劣るものではなく、みごとな構成を生み出している。（第 17 回演奏会プログラムより引用）

シャコンヌ　ヴァイオリン無伴奏パルティータ No.2 より（ニールセン・江村孝哉編）

　バッハのシャコンヌといえば、バッハの器楽作品の最高峰ともいうべき作品であるが、作曲者が多くの室内楽作品を書いたケーテン時代に創られた、独奏ヴァイオリンのためのパルティータ第２番の終曲である。このパルティータに於いてシャコンヌの占める割合は、その他の部分より長大で、単独で演奏されることも多く、又、編曲としてはブラームスやブゾーニによるピアノのためのもの、ストコフスキー、斎藤秀雄によるオーケストラのもの、ニールセンによる弦楽合奏のもの等が有名であるが、今日は指揮者の江村孝哉が弦楽合奏のためにさらに編曲したものを自身の指揮によって演奏する。（第 21 回演奏会プログラムより引用）

PROGRAM

J.S. バッハ

フーガ ト短調（弦楽合奏版 - 江村孝哉編）
BWV1001（ヴァイオリン無伴奏ソナタ No. 1より）

ブランデンブルグ協奏曲 第５番 ニ長調 BWV1050
村山　　直（Vn）
日置　光子（Fl）
永田　悦子（Cemb）

二つのヴァイオリンのための協奏曲 ニ短調 BWV1043
田中　信介
田中　敬子

シャコンヌ（弦楽合奏版 - ニールセン・江村孝哉編）
BWV1004（ヴァイオリン無伴奏パルティータ No. 2より）

スズキメソード京都